



# 一月(大) 睦月

## 柳宿

一月五日小寒の節より  
月命己丑六白金星の月  
暗剣殺西北方

旧 十一月小  
十二月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	金	つちのとり	六白	○元日、年賀、初詣、歳旦祭、修正会 <small>旧庚子十一月小</small>	十八	佛滅	おさん	婁	万よし	6.51	16.39	18.36	8.29
2日	土	かのえ いぬ	五黄	初荷、初夢、書初め、皇居一般参賀	十九	大安	ひらく	胃	大みやう	6.51	16.39	19.41	8.29
3日	日	かのえ	四緑	初亥、福岡宮崎宮玉せせり、一粒万倍日 <small>初子、官庁御用始め、八せん始め、一粒万倍日、不成就日</small>	廿	赤口	とづ	昴	大みやう	6.51	16.40	20.47	9.12
4日	月	みづのえ	三碧	小寒一二時二三分、初水天宮	廿一	先勝	たつ	畢	くま日	6.51	16.41	21.53	9.50
5日	火	みづのとう	二黒	下弦一八時三七分、六日年越し、初寅、東京消防出初式、公現祭、高崎だるま市	廿二	友引	たつ	觜	十し	6.51	16.42	22.59	10.56
6日	水	きのえ	一白	七草、人日、初卯、一粒万倍日、福岡太宰府天満宮うそ替え・鬼すべ	廿三	先負	のそく	参	十し	6.51	16.44	11.27	10.56
7日	木	きのと	九紫	初薬師、学校始業、東京鳥越神社とんど焼	廿四	佛滅	みつ	井	神よし	6.51	16.44	0.06	11.58
8日	金	ひのえ	八白	初巳、宵えびす、京都西本願寺報恩講(16日迄) <small>三隣亡</small>	廿五	大安	たいら	鬼	大みやう	6.51	16.44	12.31	11.43
9日	土	ひのと	七赤	初金毘羅、十日えびす、一一〇番の日、	廿六	赤口	さだん	柳	母倉	6.51	16.45	2.24	12.31
10日	日	つちのえ	六白	成人の日、鏡開き、蔵開き	廿七	先勝	とる	星	神よし	6.51	16.46	3.35	13.51
11日	月	つちのえ	五黄	朔一四時〇〇分 <small>旧十二月大</small>	廿八	友引	やぶる	張	大みやう	6.51	16.47	4.46	14.41
12日	火	かのえ	四緑	庚申、不成就日	廿九	先負	あやぶ	翼	大みやう	6.51	16.48	5.53	15.38
13日	水	かのと	三碧	十四日年越し、仙台どんと祭、大阪四天王寺とんどや	初	赤口	なる	軫	●	6.51	16.49	6.53	16.41
14日	木	みづのえ	二黒	小正月、小豆がゆ、八せん終り <small>やぶ入り、賽日、えんま詣り、真宗本派親鸞聖人忌、九星陽通始め、天しや、甲子、一粒万倍日、土用六時五七分、防災とボランテアの日、秋田太平山三吉神社梵天祭</small>	五	佛滅	たつ	房	十し	6.50	16.52	7.30	18.53
15日	金	みづのと	一白	一粒万倍日	六	先勝	たいら	箕	天おん	6.48	16.56	8.25	19.33
16日	土	きのえ	ね一白	大寒五時四〇分、二十日正月、臘日、旧こと納め、旧針供養	七	赤口	みつ	尾	天おん	6.48	16.55	9.06	20.20
17日	日	きのと	二黒	●上弦六時〇二分、初大師、己巳	八	先勝	たいら	箕	天おん	6.49	16.55	9.57	21.21
18日	月	ひのえ	三碧	黙阿弥忌、大つち、三隣亡	九	友引	さだん	斗	母倉	6.49	16.56	10.32	22.48
19日	火	ひのと	四緑	奈良若草山焼き	十	先負	とる	牛	母倉	6.48	16.57	11.52	23.48
20日	水	つちのえ	五黄	初地蔵、東京巢鴨とげぬき地蔵尊大祭 <small>初天神、東京亀戸天神うそ替え、法然上人忌</small>	十一	大安	あやぶ	虚	神よし	6.48	16.57	13.13	15.54
21日	木	つちのと	六白	文化財防火デー、道元禪師誕生会、天理教本部春季大祭、不成就日	十二	佛滅	やぶる	女	大みやう	6.47	16.59	14.09	16.48
22日	金	かのえ	七赤	国旗制定記念日、小田原道了尊大祭	十三	赤口	なる	危	●	6.47	16.58	15.22	17.17
23日	土	かのと	八白	初不動、一粒万倍日	十四	先勝	おさん	室	めつもん	6.47	16.59	16.59	18.44
24日	日	みづのえ	九紫	望四時一六分	十五	友引	ひらく	壁	月とく	6.45	17.03	17.02	19.48
25日	月	みづのと	一白	小つち	十六	先負	とづ	奎	きこ	6.45	17.04	18.17	20.37
26日	火	きのえ	二黒	一粒万倍日	十七	佛滅	たつ	婁	十し	6.43	17.05	19.44	21.10
27日	水	きのと	三碧		十八	大安	のぞく	胃	ぶく日	6.43	17.06	20.44	21.59
28日	木	ひのえ	四緑		十九	赤口	みつ	昂	神よし	6.43	17.07	21.44	22.45
29日	金	ひのと	五黄		廿	先勝	なる	軫	●	6.43	17.08	22.45	23.30
30日	土	つちのえ	六白		廿一	友引	ひらく	壁	月とく	6.43	17.09	23.30	24.25
31日	日	つちのとう	七赤		廿二	先負	なる	危	●	6.42	17.07	24.25	25.20

冠婚葬祭とは、わが国古来よりの礼法で、冠婚葬祭、祭祀の四つを略して「冠」は冠、婚は婚姻、葬は葬祭、祭は祭祀のことである。歴に即したものを中心にして、そでない一般的なものには適宜に配置した。

〔冠〕これは、加冠(戴冠)の儀という男子の元服を代表にしたもので、人間が成長し、人格が形成されていく段階において行われ、数々の儀の総称である。

一月の冠婚葬祭は「成人式」(二月第二日曜日)に極まる。これは、法的に新しく社会の一員に加わる満二十歳になつた青年男女が、自覚してめでたく菓立つことを祝福する日として国民の祝日となつてゐる。

〔婚〕婚姻、婚礼は、季節にほとんど関係がなく、寒中であれ暑中であれ、日柄さえよければ挙式するならわしであるが、農家では比較的前な一月に式を挙げる人が多い。

〔葬〕生者必滅、たとえ王者といへどもこれを避ける者はなく、そしてその命尽きるとき、季節を問うものでもないことはもちろんである。従つて葬儀そのものは、一月に大きな関係はないが、この月七日までのいは葬儀を差し控えるならわしである。

〔祭〕暦とは切つても切れないが祭祀、遠い祖先から伝わつた「お祭り」の年中行事である。

年の初めの「元日」。一年間の出発点として、数々の風習が伝承されてゐます。初詣、年始回り、門松、鏡餅、若水、屠蘇、雑煮、おせち料理……等、地方により家庭により、多少の差異はあるが、ほとんどの人がこの日を祝ふ。

三日までを「三が日」といふ、その間の二日は初荷、初夢、書初め、仕事始め……など縁起を祝ふ。

七日は「七日正月」といひ、十五日は「小正月」といふ、それぞれ習慣による祭事を行うが、七日の「七草がゆ」については、冬のビタミン補給だとする合理的解釈もある。